

「心に残る文化財子ども塾」学習指導案

日 時：平成30年6月1日（金）

14:05～14:50（5校時）

15:00～15:45（6校時）

場 所：出雲市立乙立小学校

対象者：同校6年生5名・5年生1名

指導者：○6・5年部教職員

○古代出雲歴史博物館職員2名

1. 主題（主題名）

奈良時代の乙立周辺と律令社会 一通貨の発行と大仏造立一

2. ねらい

- ・地域を素材とした歴史学習を通し、歴史・文化財に対する興味・関心を高める。
- ・「和同開珎」作りを通して、通貨の意義と鑄造技術について学ぶ。
- ・「奈良の大仏」について体験的、専門的に学び、その巨大さとともに、込められた先人の思いについても触れる。

3. 展開

学習活動	指導者の支援及び留意点
14:05～14:20（15分） ①古代の出雲と奈良時代の乙立周辺について学ぶ。	・青銅器復元品や、『出雲国風土記』に記された奈良時代乙立周辺の様子を紹介。
14:20～14:50（30分） ②和同開珎について、鑄造体験を通して学ぶ。 ○貝貨から始まったお金の歴史を知る。 ○鑄造技術を体験的に学ぶ。	・和同開珎作りセットを活用。 ・金属が固まる時間を活用し、貝貨から和同開珎に至るお金の歴史、島根県内で発見された和同開珎について説明。
15:00～15:45（45分） ③奈良の大仏について、その巨大さを体験を通して学ぶ。 ○1m四方の部品パネルをパズル形式で組み立てていき、全長18mの大仏を完成させる。 ○独特な仏像の作風について質問し、疑問を解く。	・奈良の大仏の実物大パネルを活用。 ・理解しやすい写真パネルを多様。 ・一方的な説明に終始せず、子どもたちが「気づき」「わかる」よう、質疑応答の対話形式で進行。

※5校時は理科室、6校時は体育館。

4. 準備物等

- ・〔実物資料〕 荒神谷遺跡出土の銅剣・銅鐸復元品、神原神社古墳出土の銅鏡復元品
- ・〔体験用具〕 和同開珎作りセット、奈良の大仏の実物大パネル
- ・〔説明用具〕 写真パネル
- ・〔配布資料〕 『出雲国風土記』に記された奈良時代の乙立周辺の様子